

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	もてる力を発揮し、まわりの世界に自分から関わり、元気で明るくたくましく生きていこうとする人を育てる。	学校整理番号	特12
(2) 現状と課題	在籍児童生徒は肢体不自由のほか、知的障害など複数の障がい併せ有することが多いため、一人一人の実態に応じた授業の充実に重点を置いている。また、教育活動の基盤となる一人一人の健康と安全を保障するため、保護者や主治医等との情報の共有を重視し、日常的な健康管理を適切に行うと共に、必要な児童生徒には医療的ケアを実施する体制を整えている。地域や関係施設等との連携をより一層深めながら、児童生徒の自立と社会参加を促す教育活動の充実に図ることが課題である。	学校名	県立弘前第二養護学校
(3) 重点目標	1 個に応じた教育活動の充実 2 安全で安心な教育環境の確保 3 児童生徒一人一人の自立と社会参加の促進 4 センター的機能の充実	対象障害種別	視覚・聴覚・知的(肢体)・病弱
(4) 結果の公表	保護者 アンケート結果と改善策を参観日全体会で報告 地域等 学校ホームページに掲載 教職員 アンケート結果と改善策を職員会議で共有及び協議・検討	自己評価実施日	令和7年12月 5日(金)
		学校関係者評価実施日	令和8年 2月10日(火)
		(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	
		学校運営協議会委員9名 ・保護者1名 ・地域の町内会長1名 ・地域の学校職員2名 ・関係福祉施設職員4名 ・有識者1名	

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	個に応じた教育活動の充実	① 児童生徒が生き生きと活動するために、個別の指導計画等の整備と日々の授業の充実や改善に努める。 ② 児童生徒一人一人の障がいの状態を把握し、課題に即した自立活動の指導の充実に努める。 ③ 児童生徒一人一人の障がいの状態に合わせた適切な補助具や補助手段を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用し、指導の効果を高めるよう努める。	①必要に応じて個別支援会議を実施し関係機関と情報の共有を図りながら、保護者の願いを反映させた個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、授業を行った。 ②③校内研修において、実態把握に関する演習、動作の学習、摂食指導、ICT機器の活用等、外部講師による研修に加え、校内の人材を活用しながら児童生徒の課題に沿って实际的に研修するなどして、学習活動の充実につなげた。	A	①保護者アンケートでは、個に応じた指導、本人や保護者の願いを踏まえた教育活動に関する評価は高い。教職員が丁寧に思いを汲み取りながら指導に生かしていると思う。 ①教職員は、より子どもに合った指導をしたいという思いからか、自己評価が厳しくなっている。無理のないよう少しずつ改善を進めてほしい。 ②③充実した校内研修が行われており、教員の資質向上、指導改善につなげている。ICTについては、様々新しいものが出てくるので大変だとは思いますが、必要なものを取り入れていってほしい。	①引き続き、指導に関する計画や引き継ぎに係る資料を整理し、子どもに関わる情報を適切に指導に結びつける仕組み作りを行う。 ②児童生徒の実態把握、目標設定の方法について研修の機会を確保し、一人一人の課題を明確にする手続きの改善を図る。 ③ICT活用に関する研修、校内人材を活用した学習会等を企画・実施し、日常的教育活動の中で生かすことのできる実践的な知識・技能を身に付けるようにする。

2	安全で安心な教育環境の確保	<p>① 児童生徒一人一人の実態に応じた食環境の整備や、安全で楽しい給食指導の実施に努める。</p> <p>② 児童生徒一人一人の実態に応じた安全で適切な医療的ケアの実施に努める。</p> <p>③ 施設設備の日常的な安全管理や計画的な整備、災害時等の安全対策の整備・充実に努める。</p>	<p>①保護者との情報交換に基づいて児童生徒の摂食機能の実状に合った食形態を選択し、二次調理によって個々の実態に合わせて微調整を行った。また、摂食に関する研修を継続的に実施し、安全に給食指導を実施した。</p> <p>②定期的なミーティングと日々の情報交換の充実に図り、ケアの内容や手技等について関係者で共有し、児童生徒の体調や体の状態に合わせた適切なケアにつなげた。</p> <p>③避難所運営の研修会の実施、昨年度の学校運営協議会での熟議で提案された緊急地震速報対応訓練や災害時のストレスケア等を実施し災害対応の充実に図った。</p>	B	<p>①②健康・安全や医療的ケアに関する保護者の評価は非常に高い。学校と家庭が連絡を取り合って適切に対処している結果であると思う。しかし、給食に関して思いのある保護者もいるようだ。学校の実情と取組が十分伝わっていないことも考えられるので、積極的に情報発信することも必要である。</p> <p>③学校運営協議会での意見を踏まえてできることから取り組んでいる。新たな取組をするたびに課題が見えてくるので、少しずつ精度を上げてほしい。</p>	<p>①安全で楽しい給食の実現に向け、外部の専門的な研修会への計画的な派遣、校内での基礎・基本の徹底を図る学習会の充実に努める。</p> <p>②保護者、主治医、医療的ケア指導医と情報共有を図りながら、必要なケアを適切に実施する体制を整える。また、積極的に認定特定行為業務従事者の認定を受けるよう促し、学校看護師との連携の下に医療的ケアの体制の充実に努める。</p> <p>③災害に係る訓練等の改善点を明らかにしながら、実際の訓練の中で対応を確認していく。</p>
3	児童生徒一人一人の自立と社会参加の促進	<p>① 近隣の学校、施設とスポーツ等を共に行う活動や校外における行事の充実に努める。</p> <p>② 学校公開や作品展の実施や出品を通して、地域に開かれた学校として理解・啓発に努める。</p> <p>③ 「キャリア教育全体計画」に基づく小・中・高一貫したキャリア教育の充実に努める。</p>	<p>①交流及び共同学習の実施に当たって、相手校への出前授業による事前学習等を行うなど、直接交流の機会の学びをより充実させることができた。また、居住地校交流では、打ち合わせシートを活用して、必要な支援等について共通理解しながら交流を進めた。</p> <p>②弘前第一養護学校との合同作品展の実施、高等部の学習における町内会への協力依頼など学習活動を周知する機会を設けた。リサイクル等の取組が認められ「もったいないあおもり賞」を受賞した。</p> <p>③キャリア教育全体計画を踏まえ、県の特別支援学校における「好き」を見つける学びの充実支援事業を活用し、段階的に地域の文化等に触れる機会を設定した。</p>	B	<p>①積み重ねることによって理解促進につながり、社会参加を支える人材を育てることになっていると感じている。特に居住地校交流は本校では数が少ないが、地域の中で生きていく上で重要な取組であるため、積極的に推進してほしい。</p> <p>②昨年度まで、校外での活動、外部との関わりを意識的に増やそうとしてきたことに加え、作品の入选や受賞など積極的に外へアピールした結果が伴っているのはよいことだと思う。</p> <p>③日々の教育活動の中にキャリア形成につながる要素があるということを確認しながら段階的に積み上げてほしい。</p>	<p>①引き続き、出前授業による障がい理解教育、事前の打合せを丁寧に行うなど、交流実施時の学びを充実させるための取組に力を入れる。</p> <p>②ホームページ等を活用した積極的な情報発信に加え、校外で学習活動を実施・発表する機会の確保に努める。</p> <p>③興味関心を開発し、自己選択・自己決定する力を育てることができるよう、県の事業等を活用しながら、児童生徒に必要な直接経験の機会を確保する。</p>
4	センター的機能の充実	<p>① 計画的な校内研究及び校外の研修等を通して、教員の専門性の向上に努める。</p> <p>② 「そだちとまなびの支援センター」と連携し、特別な支援を必要とする未就学児等の教育相談の充実に努める。</p> <p>③ 教育・福祉・医療・労働等の関係機関と連携し、特別支援教育に係る情報の提供や支援の充実に努める。</p>	<p>①隣接する機関の理学療法士等との協力のほか、外部講師、校内人材を活用した研修の機会を設け、日常的な疑問を解決しながら指導の改善につなげることで、肢体不自由教育に関する専門性の向上が図られた。</p> <p>②弘前市、藤崎町教育支援委員会へ専門員を派遣し、就学に関わる相談等に応じた。また、小中学校等からの要請に応じ、教育相談や就学に係る学校見学を実施した。</p> <p>③支援会議や移行支援会議の実施、受診への帯同など他機関と情報を共有しながら教育活動を実施した。</p>	B	<p>①外部、内部の人材を効果的に使って実際に即した研修を積み重ねている。</p> <p>③関係機関との連携について、昨年度よりも評価が上がっている。取組の充実といった側面もあると思うが、取組の様子が伝わったということが大きいように思う。学校にとっては当たり前と思うことでも、知らないという評価できないこともあるので、小さなことでもその様子や先生方の意図を伝えていく必要があると思う。</p>	<p>①引き続き、外部講師、校内の人材を活用した研修の場を設定し、実際場面での支援の力量形成を図る。</p> <p>②引き続き、地域の教育相談に協力するとともに、適切な就学を支援できるよう関係機関と連携を取りながら特別支援教育の対象となる幼児児童生徒の把握に努める。</p> <p>③引き続き、会議の設定、連携の場や機会の確保に努めると共に、情報を発信する際に取組の意義や学校の意図を加えるようにして、相互の理解につながるようにする。</p>
(11) 総括	<p>児童生徒の思いや保護者の願いを大切にしながら、一人一人に応じた指導の充実に努めて取り組んできたことについてその成果が見えてきている。特に、食事指導や医療的ケアなどの健康・安全に関することについては、体調等について日々丁寧な情報交換が行われているため、保護者の安心感につながっているものと考えられる。</p> <p>また、関係機関と連携・協力した支援については、意図的な情報発信により、実状の理解が進んだと考えられる。引き続き、こまめに、丁寧な情報交換を行っていくことで、学校の教育活動への理解と協力を得られるようにしていく。</p> <p>一方で、児童生徒の指導を計画・実施・評価・引継ぎしていく過程の改善、教員が作成する諸指導計画等の整理など授業の質を上げるための仕組み作りに取り組む必要がある。さらに、教育活動を支える安全で安心な環境作りについて、日常的な管理の確実な実施と共に、災害時、緊急時等に対応できる体制の確認・改善や備品の整備を順次進めていく必要がある。</p>					